

令和5年度（令和4年度事業）事務事業評価報告書

令和5年10月

総務企画課財務行革推進室令和5年度（令和4年度事業）事務事業評価について

1. 目的について

令和3年度下半期から、「第5次総合計画」が始まる中、第7次行財政改革プラン並びに令和4年度の機構改革推進の段でも事務事業評価の重要性が強く述べられています。そのことを踏まえ、持続可能な町政運営の展開のために、令和3年度から用いたシステムを活用しながら、選択と集中を旨としつつ、令和6年度当初予算編成に反映させていきます。

2. 評価システムについて

①評価基準

1次評価：担当課

2次評価：他課管理職（平均値を用いる）

3次評価：特別職

最終評価：1次～3次までの評価の平均値とする。

3. 事務事業評価シートの評価基準

(1) 各評価項目の点数（全9項目）

1. 「はい」 11点
2. どちらと言えば「はい」 8点
3. どちらと言えば「いいえ」 3点
4. 「いいえ」 0点

(2) 合計点数による評価基準

1. 81点以上 継続性あり
2. 71～80点 継続性は認められるが見直しを検討する必要あり
3. 61～70点 縮小または他の事務事業との統合化を検討する必要あり
4. 60点以下 廃止を検討する必要あり

【1 評価の結果】

令和5年度（令和4年度事業）事務事業については、第5次総合計画2年目となり、引き続き309の事務事業2,603,058千円について評価を行った。その結果、最終評価シートにおける最終評価内容については、

- | | | |
|-----------------------------|--------------|----------|
| 1. 継続性あり | 178事業(57.6%) | (R3 145) |
| 2. 継続性は認められるが見直しを検討する必要あり | 75事業(24.3%) | (R3 96) |
| 3. 縮小または他の事務事業との統合を検討する必要あり | 12事業(3.9%) | (R3 14) |
| 4. 廃止を検討する必要あり | 0事業(0%) | (R3 0) |
| 5. 評価なし（未評価） | 44事業(14.2%) | (R3 54) |

となっている。

その中で1の「持続性あり」が178事業で全体の57.6%、2の「継続性は認められるが見直しを検討する必要あり」が75事業24.3%で、1と2を合わせると81.9%となっている。また、3「縮小または他の事務事業との統合を検討する必要あり」の12事業となっている。以上のことから、昨年度と比較して1と2の合計については12事業の増加、3については2事業の減少、同じく5の評価なし（未評価）は10事業の減少となり、計画に基づいた進捗が見られると言える。但し、「3. 縮小または他の事務事業との統合を検討する必要あり」については、昨年度から2減となっているが、残りの12事業については、今後施策の再構築等評価に基づく改善をお願いしたい。

また、事務事業についてはあくまでも「第5次最上町総合計画」の事業評価を行っているものであり、その重要性を鑑みれば、評価なし（未着手、重複等）が昨年度よりも10事業減ってはいるものの、依然として44事業となっているので、今後の対応に配慮いただきたい。また、重複の事業は単一の施策よりも重要視されるとも言えるわけであるので、次回は事業内容を必ず再掲願いたい。

【2 事業経費の推移】

についてであるが、3「縮小または他の事務事業との統合を検討する必要あり」12事業の4年度の事業費の総額は、29,987千円となっている。